

小学生の交通事故

死亡や大けがの約4割が 「飛び出し」

ドライバーは、
学校付近や通学路を運転する場合は、
左右の安全確認などに
いつも以上に注意を払ってほしい

- 歩行中は、1年～2年の低学年が半数
- 自転車は、4年～6年が半数以上
- 時間帯は、登校・下校が約半数
- 保護者は、「道路を渡る前に、止まって確認」を、子どもに徹底

2022/4/7(木) 10:19

歩行中に交通事故に遭い死亡や大けがをした小学生の約4割が、安全確認を怠る「飛び出し事故」によるものでした。

県警によりますと、歩行中に交通事故に遭い、死傷した小学生の数は、2017年から2021年までの5年間で1,186人に上りました。

学年別では、1年生が286人、2年生が260人と低学年が半数近くを占めました。

一方、自転車に乗っていて事故に遭い、死傷した児童は1,095人で4年生から6年生が637人と半分以上を占めています。

歩行中の事故を原因別でみると、死亡や大けがをした児童179人のうち、約4割にあたる71人が安全確認をしない路上への「飛び出し」が原因でした。

また、時間帯別では、登校や下校中の事故が全体の約半数を占めました。

4月上旬には春休みが明け、また新1年生の通学も始まることから、県警は「道路を渡る前に止まることなどを子どもに徹底させてほしい」と保護者に呼びかけています。

また、ドライバーには「学校のそばや通学路を運転する場合は、左右の安全確認などにいつも以上に注意を払ってほしい」としています。